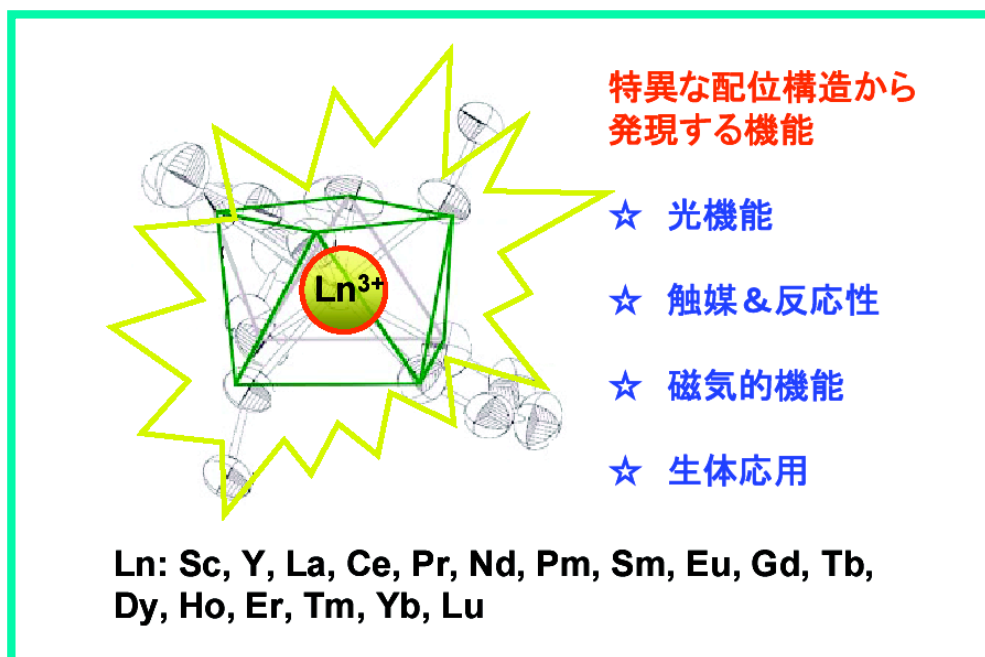


2008年錯体化学討論会シンポジウム

希土類錯体：未踏配位化学の探求と機能創成



21世紀の科学技術をさらに発展させるためには、分子レベルで解析・機能創出・制御を行う「錯体化学」の発展がますます重要となっている。錯体化学の中でも、特に希土類錯体化学を用いた機能解析・機能創出に関する研究報告が近年急増しており、学術的な基盤研究から先端的な応用研究まで幅広い興味を持たれている。希土類錯体は照明材料、ディスプレイ、センサーのような光機能素子としての応用だけでなく、バイオメディカル分野(イムノアッセイ)やセキュリティー関連分野(シークレットインク)などへも展開している重要物質である。また、希土類錯体を用いた特異的な化学反応や磁気特性についても近年盛んに研究されており、今後さらなる飛躍が期待される重要な研究対象と言える。

本シンポジウムでは、希土類錯体の構造と機能に焦点を当てた4件の招待講演および希土類錯体に関するパネルディスカッションを行う。遷移金属とは異なる新しい錯体化学の学理を目指す研究者、および最先端の機能物質(光機能、触媒機能、生体機能、機能材料)に興味を持つ研究者にとって意義深い、希土類錯体の持つ魅力を広く認知していただく機会としたい。